

ふくしまオーガニック通信

～ 令和6年度 第3号 ～



令和7年3月26日

福島県農業総合センター有機農業推進室

福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地

TEL:024(958)1711 FAX:024(958)1730

Email:yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp

＜有機農業推進活動の取組紹介＞

「みんなでチャレンジ！環境保全型農業大会 2024」を開催し、 環境保全型農業コンテストの表彰式が行われました

【農林水産部環境保全農業課】

県では、環境保全型農業の推進を目的に、有機農業や特別栽培などの取組を図りながら、地域の発展に貢献する農業者団体の活動を奨励する「環境保全型農業コンテスト」を令和4年度から開催しています。

その表彰式が、令和7年1月17日に開催した「みんなでチャレンジ！環境保全型農業大会 2024」において行われ、最優秀賞に特定非営利活動法人会津自然塾（会津美里町）、優秀賞に郡山環境保全農業研究会（郡山市）と株式会社新妻有機農園（広野町）が表彰されました。

会津自然塾は、平成15年に設立し、環境保全型農業の取組をはじめ、6次化商品開発、宅配事業、交流イベント、講習会及びマルシェの開催などの幅広い活動を通して、消費者と生産者の相互理解を深めています。郡山環境保全農業研究会は、人材育成のため先進地視察研修を毎年実施しており、また新妻有機農園は、土づくりの実施による食味向上により米・食味分析鑑定コンクール国際大会において特別優秀賞を受賞するなど、いずれの団体とも多様な取組が評価されました。



事例紹介する鹿野義治理事長
(会津自然塾)



受賞された皆様

「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を開催しました

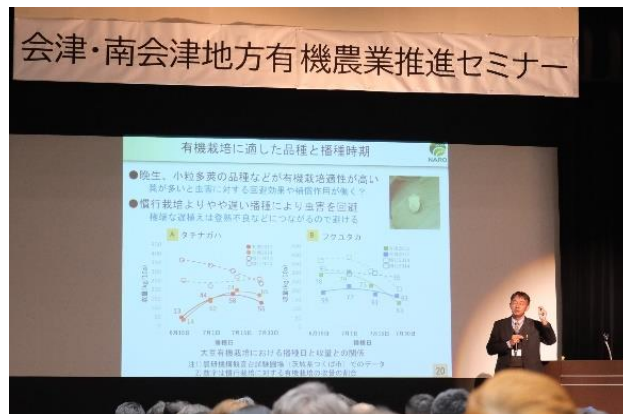
【会津農林事務所農業振興普及部】

令和6年11月19日に、会津・南会津地方における有機農業の取組拡大を図るため「会津・南会津地方有機農業推進セミナー」を喜多方プラザ文化センターで開催しました。

一般社団法人日本有機農業普及協会の小祝政明氏からは「BLOF理論で土づくりを科学する」をテーマに、土づくりにおけるアミノ酸やミネラルなどの重要性について講演いただきました。また、農研機構みどり戦略・スマート農業推進室の三浦重典氏からは「有機栽培技術と研究最前線」をテーマに、有機栽培の基本的な栽培技術について様々な研究データを踏まえた紹介がありました。有機栽培の生産者だけでなく、慣行栽培の生産者も多く参加があり、それぞれの立場で有機農業を学ぶ機会となりました。



BLOF理論について講演する小祝政明氏



研究成果を紹介する三浦重典氏

「令和6年度環境にやさしい農業セミナー」を開催しました

【農業総合センター有機農業推進室】

令和7年3月7日に、「令和6年度環境にやさしい農業セミナー」を農業総合センターで開催しました。

青森県黒石市で有機農業に取り組む株式会社アグリーンハートの佐藤拓郎氏を講師に招き、「もうかる・誇れる有機農業」をテーマに、BLOF理論の実践、水稻+大豆の輪作体系、紙マルチ田植えの導入等の取組について講演いただきました。また、カネコ種苗株式会社の瀬音幸弘氏からは「緑肥作物の種類と使い方」をテーマに、緑肥作物の種類と効果、すき込みの目安・方法等の紹介がありました。農業総合センターからは、試験研究成果と現地実証ほの実績について発表しました（詳細は次ページ以降参照）。

参加者からは、紹介された技術を実際に取り入れてみたいとの声が多数寄せられました。



自社の取組を紹介する佐藤拓郎氏



緑肥の効果を紹介する瀬音幸弘氏

<現地実証ほの実績報告>

『水稲有機栽培における屑大豆を利用した施肥の実証』

【農業総合センター有機農業推進室】

近年の資材価格高騰の影響に伴い、水稲有機栽培においても堆肥等の地域資源を活用した肥培管理が求められています。そこで、地域で生産された大豆の規格外品（屑大豆）を基肥として活用し、実証区（屑大豆；窒素成分で3.5kg/10a）、対照区（有機質肥料；窒素成分で3.6kg/10a）、慣行区（無肥料）の3区で収量や品質を検証しました。

実証区の坪刈り収量は、慣行区より40kg/10a程度多くなり、対照区よりも112kg/10a程度少なくなりました。また、玄米のタンパク質含量は5.5%で慣行区とおおむね同程度となり、屑大豆施用による品質の低下は見られませんでした。

表 収量・品質調査

区分	収量						品質		
	精玄米重 (kg/10a)	籾数 (粒/穂) (×100粒/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	不稔歩合 (%)	タンパク (%)	アミロース (%)	水分 (%)	
実証区	407	75.0	218	21.6	92.0	3.7	5.5	18.1	14.2
対照区	519	77.7	298	21.6	89.2	4.8	6.1	18.6	14.1
慣行区	367	71.4	161	21.7	91.3	4.0	5.9	18.4	13.9

『キャベツ有機栽培における緑肥利用による減肥効果の実証』

【農業総合センター有機農業推進室】

マメ科緑肥作物のクロタラリアのすき込みによるキャベツの減肥効果について、実証試験を行いました。

6月にクロタラリアの種子を6kg/10a散播、約1か月半後（7月下旬）に草丈135cm、生収量2.5t/10aの生育量確保後、モアで粉碎して土中にすき込み、約2週間腐熟させました。

緑肥あり区を無肥料区、50%減肥区、20%減肥区に分け、8月中旬にキャベツを定植したところ、いずれの区も慣行区（緑肥なし・通常施肥）同様、10月上旬から結球が始まり、11月上旬には収穫開始（球径18cm以上で収穫）となりました。緑肥あり・無肥料区は、一部で生育の遅れがみられたものの、6日後には球径18cm以上に肥大し収穫となり、経費は慣行区よりも10a当たり約7,000円低く抑えられました。一方、緑肥なし・無肥料区は、11月22日以降、球が肥大せず収穫に至らない株が多数見られ、収穫できた株も球重が0.9kgに届かず、2.8t/10aの雑草をすき込んでも肥料効果は低いことがわかりました。

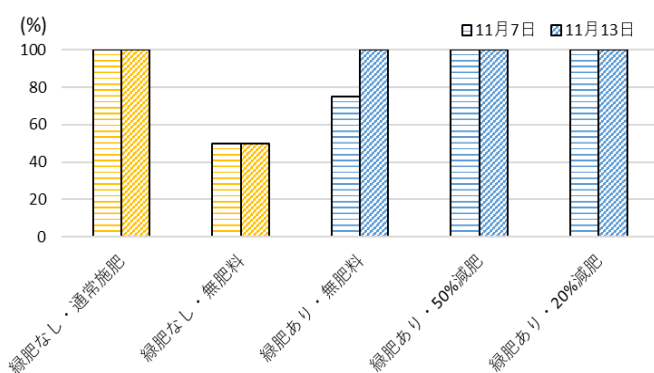


図1 収穫可能割合 (11/7,13時点)

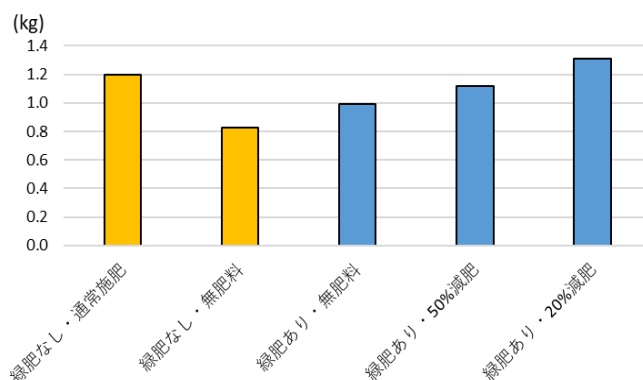


図2 収穫物の平均球重 (11/7)

『中山間地域における水稻紙マルチ栽培の地域適応性の検証』

【会津農林事務所農業振興普及部】

標高 450m の中山間地域における水稻紙マルチ栽培の生育や品質を検証し、実用性を確認しました。

紙マルチ栽培は、地温の上昇を抑制させるため若干の生育の遅延や減収はあるものの、食味や収益性の向上が認められました。一方、雑草防除や収量確保の面では丁寧な代かき、適切な水管理などが今後の課題になりました。今回の結果を踏まえ、昭和村では次年度により標高の高い地域で有機栽培にチャレンジする予定です。

表 紙マルチ栽培と慣行栽培の収量の比較

栽培方法	精玄米重 ^{※1} (kg/10a)	実収量 ^{※2} (kg/10 a)	検査等級 ^{※2}	一穂粒数 (粒/穂)	粒数 (×100粒/ ㎡)	千粒重 ^{※1} (g)	登熟歩合 (%)	不稔歩合 (%)
紙マルチ	361	411	1等	66.0	167.3	22.4	92.6	3.3
慣行 ^{※3}	623	554	1等	80.2	356.5	22.9	91.0	3.1

※1 精玄米重、千粒重は1.8mm篩別による（坪刈による値）。

※2 生産者への聞き取りによる。

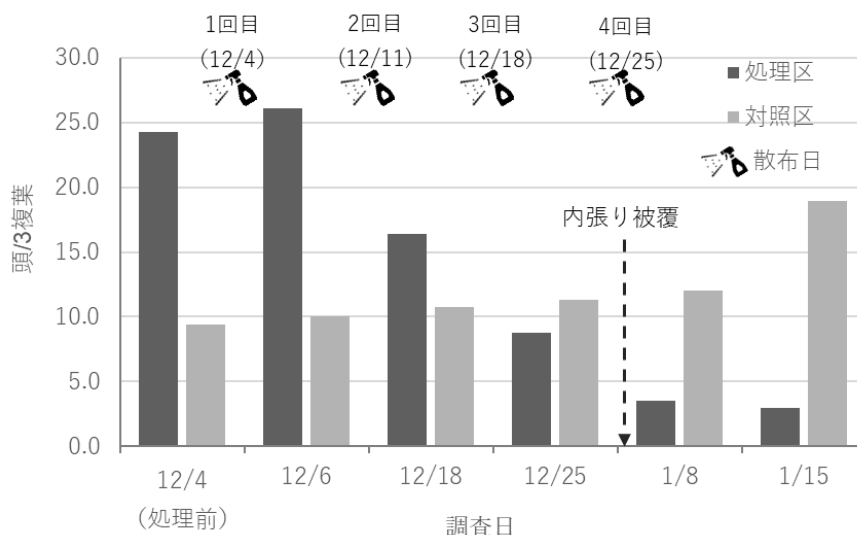
※3 昭和村の作況調査ほ場のデータ。化学肥料、化学農薬使用。

『イチゴの有機栽培における脂肪酸グリセリド乳剤を使用した アブラムシ類及びうどんこ病の防除法の実証』

【会津農林事務所農業振興普及部】

イチゴの有機栽培において問題となっているアブラムシ類やうどんこ病について、有機JAS規格で使用が認められている「脂肪酸グリセリド乳剤（気門封鎖剤）」の効果的な使用方法を検証しました。

脂肪酸グリセリド乳剤を定植後から7日間隔で散布することで、アブラムシ類の密度は低下しました。被覆後（保温開始後）も約2週間低密度を維持していたことから、定期的に散布することで、収穫期まで低密度を維持できるものと考えられました。なお、ハダニ類やうどんこ病については、調査期間を通して発生が無く、脂肪酸グリセリド乳剤の効果については判然としませんでした。収量や品質については、今後確認していく予定です。



アブラムシ類の発生状況

『液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証』

【相双農林事務所双葉農業普及所】

水稲有機栽培では、ほ場への窒素投入量が低い傾向にあり、高温条件下における生育後半の栄養凋落は玄米品質の低下を招きやすくなることから、幼穂形成期以降に液肥の流し込みによる追肥を行い、収量及び玄米品質の維持、向上について検証しました。

追肥を幼穂形成期に全量を1回で施用する区と、幼穂形成期と減数分裂期の2回に分けて施用する区を設けて比較した結果、1回より2回に分けて追肥した区で収量が多くなり、品質はほぼ同等となりました。

表1 収量・品質調査

区分	収量調査			品質調査		
	精玄米重 (kg/10a)	m ² 粒数 (粒/m ²)	千粒重 (g)	タンパク質 (%)	アミロース (%)	水分 (%)
1回処理	283	16019	22.3	5.9	18.7	13.9
2回処理	304	18117	22.9	5.6	18.5	14.3

『簡易ハウスを活用したアスパラガス有機栽培の半促成長期取りの実証』

【相双農林事務所双葉農業普及所】

小型簡易ハウスを活用したアスパラガスの有機栽培について実証しました。

害虫については、当初ジュウシホシクビナガハムシがやや見られる程度で、主要害虫の発生は特に見られませんでした。病害については、草丈がハウスの天井に達する7月頃から斑点病が発生したため銅剤を2回散布しましたが、被害を抑えることはできませんでした。このため、収穫予定だったアスパラガスで立茎し直したため、生産量は300kg/10aとなりました。今後は、予防防除を基本とした病害対策を行うことで安定した生産が期待されます。



簡易ハウスの様子

表1 病害虫発生状況と対策

月 日	発生状況
4月20日	目立った病害虫なし（ジュウシホシクビナガハムシ等）
5月20日	病害虫無し
6月21日	病害虫無し（クモ、カエル多い）
7月19日	斑点病確認（7/13、27 斑点病対策ICボルト [®] -66D 100倍液散布）
8月21日	斑点病確認（8/16、30 斑点病対策ICボルト [®] -66D 100倍液散布）
9月19日	調査対象の太い茎から枯れている（3割程度）ため園外持ち出し処理

<試験研究の実績報告>

『事前乾燥処理を取り入れた高温温湯消毒の水稻品種への影響』

【農業総合センター有機農業推進室】

水稻有機栽培では、種もみを60℃のお湯で10分間浸漬する温湯消毒が広く行われていますが、高温耐性の弱い品種では発芽率が下がることや、ばか苗病などに対しては十分な防除効果があげられないという課題もありました。近年、その解決法として温湯消毒前に種もみの水分率を8%程度に下げて高温耐性を高めることで、その後に65℃で10分間温湯消毒しても発芽率が低下しないことが報告されています。そこで、本県の主要水稻3品種の「コシヒカリ」、「福笑い」、「天のつぶ」において、本技術を用いて発芽や苗の生育に及ぼす影響を調査しました。その結果、3品種とも発芽率は概ね90%以上を保ち、草丈や葉齢にも差はほとんど見られませんでした。



温湯消毒の様子

表1 事前乾燥処理前後の種もみ水分率

品種名	種もみ水分率 (%)	
	事前乾燥前	事前乾燥後
コシヒカリ 2022年産	12.7	7.8
福笑い 2020年産	12.1	7.5
天のつぶ 2023年産	11.9	7.7

表2 65℃温湯消毒後種籾と未消毒種籾の発芽率及び苗の生育

育苗時期 (日数)	温湯消毒 の有無	コシヒカリ 2022年産			福笑い 2020年産			天のつぶ 2023年産		
		発芽率 (%)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	発芽率 (%)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	発芽率 (%)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)
2024年5月 (16日間)	65℃温湯	99.0	16.2	2.2	95.1	13.9	2.4	93.9	14.2	2.0
	未消毒	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2024年6月 (17日間)	65℃温湯	97.3	16.2	2.1	94.2	14.3	2.5	91.4	15.3	2.0
	未消毒	99.6	16.0	2.2	98.8	14.5	2.3	98.0	14.8	2.0
2024年11月 (21日間)	65℃温湯	97.4	17.8	1.8	93.2	16.6	2.0	89.2	16.8	1.8
	未消毒	99.0	18.1	1.9	97.3	14.5	2.0	92.7	18.0	1.9

※ 数値は、それぞれ3反復の平均値。

※ 65℃温湯は、事前乾燥で種もみ水分を8%以下にした後に65℃温湯消毒を実施した種籾を用いた。

<普及コラム>

新たな有機農業者組織「ZERO ベジ」が設立しました！

【農業総合センター有機農業推進室】

県中・県南地域の有機農業の持続的な発展に向けて、有機農業を実践し、新たな担い手育成にも関心の高い農業者・法人がメンバーとなった「ZERO ベジ」が新たに立ち上がりました。

令和7年2月27日に、郡山市内で、設立メンバー6名と関係機関5名による設立総会が行われ、会の規約、役員を選任、活動計画案等が決定されました。

会長の安田潤一氏が、「一人一人ではできなかったことが組織化することで様々な可能性が見えてくる。また、これからは若い人の育成が重要。行政の支援を受けながら一歩ずつ進めたい。」と挨拶。

組織名にはベジタブルの「ベジ」が入っていますが、野菜農家に限らず、新規会員を募集中です。一緒に有機農業に取り組みたい県中・県南地域にお住まいの方は、ぜひお声がけください。



設立総会の様子

「沢田稲作研究会 渡部貴人さん」を紹介します！

【会津農林事務所農業振興普及部】

「沢田稲作研究会」の会長である渡部貴人さんは、下郷町で水稻有機栽培に取り組んでいます。渡部さんは下郷町で代々続く米農家の7代目で、化学合成肥料・農薬を使用しないで栽培しています。今年度、新たに乗用型水田除草機を導入し、栽培面積の拡大を図るチャレンジがスタートしました。これまでの歩行型水田除草機では40aが限界でしたが、乗用型水田除草機の活用により約2haの除草作業を適期に実施することができ、収量も増加しました。一方、乗用型水田除草機の効率的な操作には移植時の直進性や水深の調整などの課題も明らかになり、今後も解決に向けて取り組んでいくこととしています。県では、引き続き渡部さんのチャレンジを応援していきます。



乗用型水田除草機で除草作業中の渡部さん

檜葉町の児童と園児が有機農業を体験しました！

【相双農林事務所双葉農業普及所】

双葉農業普及所では、檜葉町の松本広行氏と「松館有機有志会」の協力をいただき、檜葉小学校と檜葉町あおぞらこども園の子供達を対象に、有機水田での田植え体験や生き物調査及び有機ユズの収穫体験など、年間を通じて有機農業に触れてもらう体験を提供しました。また、檜葉町役場の協力もいただいて、2月14日にこども園の「ありがとうの会」で町内産有機米を使用した給食を提供してもらいました。家族の方には試食用のお米を配布し、有機農産物に関するアンケートを行ったところ「甘みがあり、おいしい」、「有機農業の関心が高まった」との感想をいただきました。



小学生と園児によるユズの収穫体験



檜葉町あおぞらこども園の
有機米を使用した給食

<事業紹介>

『令和7年度の有機農業関連の補助事業について』

【農林水産部環境保全農業課】

令和6年度に様々な方に活用いただいた以下の事業は、令和7年度も継続見込み（一部内容変更見込み）です。

詳細が決まりましたら、環境保全農業課のホームページを更新しますので、ぜひご活用ください。

○ 環境にやさしい農業拡大推進事業

有機JAS認証等拡大支援事業：有機JAS、特別栽培認証に係る経費等の支援。

○ みんなでチャレンジ！環境保全型農業拡大事業

環境保全型農業チャレンジ！事業：有機栽培、特別栽培の拡大、新規取組に必要な経費の支援。

○ ふくしま有機農業ひとつづくり強化支援事業

ふくしま有機農業就農研修支援事業：有機農業の就農受け入れ、技術研修、就農促進の活動の経費を支援。

【問い合わせ先】

県北農林事務所：024 - 521 - 2604

県中農林事務所：024 - 935 - 1307

県南農林事務所：0248 - 23 - 1555

会津農林事務所：0242 - 29 - 5302

南会津農林事務所：0241 - 62 - 5253

相双農林事務所：0244 - 26 - 1147

いわき農林事務所：0246 - 24 - 6160

農業総合センター有機農業推進室：024 - 958 - 1711

農林水産部環境保全農業課：024 - 521 - 7453



↑環境にやさしい
農業拡大推進事業



↑みんなでチャレンジ！
環境保全型農業拡大事業



↑ふくしま有機農業
ひとつづくり強化支援事業